

# ZENworks 2020 Update 1 Readme

2020年6月

この Readme ファイルでは、ZENworks 2020 Update 1 リリースに関する情報を提供します。

- ◆ 1 ページの「ZENworks 2020 Update 1 の新機能」
- ◆ 1 ページの「ZENworks 2020 Update 1 の展開の計画」
- ◆ 3 ページの「ZENworks 2020 Update 1 のダウンロードと展開」
- ◆ 4 ページの「ZENworks 2020 Update 1 で解決された問題」
- ◆ 4 ページの「ZENworks 2020 Update 1 で引き続き存在する問題」
- ◆ 4 ページの「ZENworks 2020 Update 1 の既知の問題」
- ◆ 8 ページの「その他のマニュアル」
- ◆ 8 ページの「保証と著作権」

## ZENworks 2020 Update 1 の新機能

このリリースに含まれる新機能の詳細については、『ZENworks 2020 Update 1 新機能リファレンス』を参照してください。

## ZENworks 2020 Update 1 の展開の計画

管理ゾーン内での ZENworks 2020 Update 1 の展開を計画するには、次のガイドラインを使用します。

- ◆ ZENworks 2017 以前の Full Disk Encryption Agent でディスク暗号化を使用していて、これらのエージェントを ZENworks 2020 Update 1 に更新したい場合、これらの管理対象デバイスの ZENworks Agent を ZENworks 2020 Update 1 に更新する前に実行する必要がある追加の手順があります。これらの手順には、適用可能なデバイスの復号化、17.1 より前のディスク暗号化ポリシーの削除、および ZENworks Agent 更新後の新しいディスク暗号化ポリシーの展開が含まれます。

17.0 以前のバージョンから Full Disk Encryption Agent を更新するための包括的な手順については、『ZENworks 2020 Update 1 - Full Disk Encryption Update Reference』を参照してください。

- ◆ まずプライマリサーバをアップグレードし、次にサテライトサーバ、最後に管理対象デバイスという順番で ZENworks 2020 Update 1 にアップグレードする必要があります。ゾーン内のすべてのプライマリサーバが ZENworks 2020 Update 1 にアップグレードされるまで、管理対象デバイスおよびサテライトサーバをアップグレードしないでください(または、新しい 2020 Update 1 エージェントをゾーンに追加しないでください)。

---

**注:** プライマリサーバがすべてアップグレードされるまで、エージェントは整合性のないデータを受け取る可能性があります。したがって、このプロセスのこの部分ではできる限り短時間で実行することをお勧めします。理想的には、最初のプライマリサーバのアップグレード直後に実行します。

---

- ◆ 次のデバイスにバージョン 2020 Update 1 を直接展開することができます。

デバイスタイプ	オペレーティングシステム	ZENworks の最小バージョン
プライマリサーバ	Windows および Linux	ZENworks 2020 以上のバージョン
サテライトサーバ	Windows、Linux、および Mac	ZENworks 11.3.x 以上のバージョン
管理対象デバイス	Windows	ZENworks 11.3.x 以上のバージョン
	Linux	ZENworks 11.3.x 以上のバージョン
	Mac	ZENworks 11.3.x 以上のバージョン

- ◆ ZENworks 2020 Update 1 へのアップグレードが完了すると、システムは再起動します。ただし、次の場面では再起動が 2 回必要になります。
  - ◆ Endpoint Security が有効な状態で 11.3.x から ZENworks 2020 以上のバージョン (2020 Update 1) に更新する場合は、再度再起動して ZESNETAccess ドライバをロードする必要があります。
  - ◆ 管理対象デバイスがクライアントセルフディフェンスが有効な Windows 10 を使用していて、11.4.x から ZENworks 2020 以上のバージョン (2020 Update 1) にアップグレードする場合は、ZENworks コントロールセンターでクライアントセルフディフェンスを無効にして管理対象デバイスを再起動してから、更新を実行して、再度デバイスを再起動する必要があります。

---

**重要:** 11.3.x より前のバージョンが実行されている管理対象デバイスは、まず 11.3.x にアップグレードする必要があります。システムは 11.3.x へのアップグレード後に再起動し、ZENworks 2020 Update 1 システム更新の展開時にもう一度再起動します。

---

- ◆ システム更新をインストールする前に、次の場所に十分な空きディスク容量があることを確認してください。

場所	説明	ディスク容量
<b>Windows:</b> %zenworks_home%\install\downloads <b>Linux:</b> opt/novell/zenworks/install/downloads	エージェントのパッケージを維持するため	6.2GB
<b>Windows:</b> %zenworks_home%\work\content-repo <b>Linux:</b> /var/opt/novell/zenworks/content-repo	zip ファイルをコンテンツシステムにインポートするため	6.2GB
エージェントキャッシュ	ZENworks サーバを更新するために必要な、該当するシステム更新コンテンツをダウンロードするため	1.5GB
システム更新ファイルがコピーされる場所。これは、システム更新 zip ファイルをインポートするために使用される ZENworks サーバにのみ適用されます。	ダウンロードしたシステム更新 zip ファイルを保存するため	6.2GB

## ZENworks 2020 Update 1 のダウンロードと展開

ZENworks 2020 Update 1 のダウンロードと展開の方法については、『[ZENworks System Updates Reference](#)』を参照してください。

ZCC 内で **[更新のチェック]** アクションを使用し、使用可能な更新のリストを表示するには、まず、次のセクションで詳しく説明されている手順を実行して、システム更新エンタイトルメントを再登録する必要があります。

### システム更新エンタイトルメントを再登録して、ZENworks ライセンスを有効にする

- 1 ZENworks コントロールセンター (ZCC) にログインします。
- 2 **[環境設定]** > **[インフラ管理]** > **[システム更新の設定]** の順に移動します。
- 3 **[システム更新エンタイトルメント]** セクションで、**[エンタイトルメント状態]** フィールドに対して **[設定]** リンクをクリックします。
- 4 **[メールアドレス]** と **[起動コード]** を指定します。  
 起動コードは、Micro Focus Customer Center の **[システム更新エンタイトルメント]** または **[ZENworks Configuration Management Activation Code (ZENworks Configuration Management 起動コード)]** で入手できます。
- 5 **[有効化]** をクリックします。ライセンスが有効化されたら、**[アクション]** > **[更新のチェック]** をクリックして、**[システム更新]** ページで使用可能なシステム更新を表示できます。  
 詳細については、[TID 7024521](#) を参照してください。

管理ゾーンが、ZENworks 2020 より前のバージョンのプライマリサーバで構成されている場合、これらのプライマリサーバすべてを ZENworks 2020 にアップグレードした後でのみ、プライマリサーバに ZENworks 2020 Update 1 を展開できます。手順については、『[ZENworks アップグレードガイド](#)』を参照してください。

管理タスクについては、[ZENworks 2020 Update 1](#) のマニュアルのサイトを参照してください。

---

**重要:** ゾーン内のすべての結合プロキシサテライトサーバが更新されるまで、Remote Management (RM) Viewer を更新しないでください。結合プロキシ経由で Remote Management を実行するには、RM Viewer のバージョンと結合プロキシのバージョンが同じであることを確認してください。

---

ZENworks 2017 Update 1 アップデートをダウンロードして展開する前に、必ず [1 ページの「ZENworks 2020 Update 1 の展開の計画」](#) を読んでください。

**ゾーン内のすべてのプライマリサーバが ZENworks 2020 にアップグレードされるまで、ZENworks 2020 Update 1 を展開しない**

この更新では、データベースのスキーマを変更する必要があります。最初のパッチインストール中は、サービスはマスタまたは専用のプライマリサーバでのみ実行されます。これは、データベース内で変更中のテーブルに他のプライマリサーバがアクセスしないようにするためです。

マスタまたは専用プライマリサーバが更新されると、残りのサーバでサービスが再開され、更新がすべてのサーバに割り当てられている場合には更新が同時に適用されます。

---

**注:** アップデート中に手動でサーバ上のサービスを停止または開始する必要はありません。サービスは自動的に停止および開始されます。

---

システム更新を延期して管理対象デバイスからログアウトしても、展開スケジュールに基づいて、システム更新はデバイスに適用されます。

ZENworks 2017 Update 1 がインストールされた管理ゾーンでサポートされる管理対象デバイスとサテライトサーバのバージョンのリストについては、「[Supported Managed Devices and Satellite Server Versions](#)」を参照してください。

## ZENworks 2020 Update 1 で解決された問題

このリリースでは、前のリリースで見つかった複数の問題が解決されています。解決された問題のリストについては、[サポートナレッジベース](#)の TID 7024523 を参照してください。

## ZENworks 2020 Update 1 で引き続き存在する問題

ZENworks 2020 Update 1 の旧バージョンで明らかになった問題のうち、一部は依然として解決されていません。詳細については、次の Readme ドキュメントを参照してください。

- ◆ [ZENworks 2020 Readme](#)

## ZENworks 2020 Update 1 の既知の問題

このセクションでは、ZENworks 2020 Update 1 の使用時に発生する可能性がある問題について説明します。

- ◆ [5 ページの「ZENworks Patch Management」](#)
- ◆ [6 ページの「ZENworks エージェント」](#)

- ◆ 6 ページの「YUM サービス」
- ◆ 7 ページの「ZENworks Full Disk Encryption」
- ◆ 7 ページの「ZENworks Endpoint Security」
- ◆ 8 ページの「Vertica」

## ZENworks Patch Management

- ◆ 5 ページの「ZENworks 2020 Update 1 へのアップグレード後に、Update 1 より前のバージョンで作成されたカスタムパッチの展開バンドル詳細が、[Patch Relationships (パッチ関係)] タブに表示されない」
- ◆ 5 ページの「更新時にパッチ (脆弱性検出) スキャンが実行されているときに他のバンドルのインストールが遅延する場合がある」
- ◆ 5 ページの「ダウンロードが保留中のパッチは、パッチフィードで無効にされた場合、サブスクリプションの更新中に「キュー」状態でスタックすることがある」

### ZENworks 2020 Update 1 へのアップグレード後に、Update 1 より前のバージョンで作成されたカスタムパッチの展開バンドル詳細が、[Patch Relationships (パッチ関係)] タブに表示されない

ZENworks 2020 Update 1 にアップグレードした後で、ZENworks の以前のバージョンで作成されたカスタムパッチについて、展開バンドル詳細がカスタムパッチの関係タブに表示されません。

**解決策:** なし

### 更新時にパッチ (脆弱性検出) スキャンが実行されているときに他のバンドルのインストールが遅延する場合がある

更新時にパッチスキャン (脆弱性検出) を実行すると、しばらく時間がかかる場合があり、それにより他のバンドルのインストールが遅延する場合があります。

**解決策:** ベストプラクティスとして、更新時にパッチスキャンを実行しないことをお勧めします。

### ダウンロードが保留中のパッチは、パッチフィードで無効にされた場合、サブスクリプションの更新中に「キュー」状態でスタックすることがある

まだダウンロードされていないパッチは、これらのパッチが取り替えによってパッチフィードで無効にされた場合に、サブスクリプション更新中に「キュー」状態でスタックすることがあります。

**解決策:** ZCC にログインして、[セキュリティ] > [パッチのダウンロード詳細] に移動し、[キャッシュステータス] ペインで、[アクション] > [保留中のダウンロードのキャンセル] をクリックします。

## ZENworks エージェント

- ◆ 6 ページの「[RHEL 8.0 デバイスでの ZENworks アイコンの表示の問題](#)」
- ◆ 6 ページの「[ワイルドカード証明書のあるゾーンでは Linux プライマリサーバの CSR が空である](#)」
- ◆ 6 ページの「[JoinProxy 詳細がデータベースで更新されない](#)」

### RHEL 8.0 デバイスでの ZENworks アイコンの表示の問題

RHEL 8.0 デバイスのデスクトップメニューバーに ZENworks アイコンが表示されません。

**解決策:** なし。

### ワイルドカード証明書のあるゾーンでは Linux プライマリサーバの CSR が空である

ワイルドカード証明書のあるゾーンでは、Linux プライマリサーバのエージェントは CSR を一覧表示しません。

**解決策:** エージェントで、`zac cache-clear` コマンドを実行して、エージェントサービスを再起動します。ZAC コマンドに関する詳細については、『[ZENworks コマンドラインユーティリティリファレンス](#)』を参照してください。

### JoinProxy 詳細がデータベースで更新されない

管理対象デバイスをリモート制御中に、管理対象デバイスが JoinProxy を介して接続されている場合でも、JoinProxy 詳細が ZCC に表示されません。zen-join プロキシログファイルに `No Primary Server is available to update Joinproxy information into database` というメッセージが記録され、技術者アプリケーションでサーバステータスが最近接サーバが使用できませんと表示されます。

**解決策:** エージェントで、`zac cache-clear` コマンドを実行して、エージェントサービスを再起動します。ZAC コマンドに関する詳細については、『[ZENworks コマンドラインユーティリティリファレンス](#)』を参照してください。

## YUM サービス

- ◆ 6 ページの「[ZENworks プライマリサーバでの YUM サービスのホスティングに関する問題](#)」

### ZENworks プライマリサーバでの YUM サービスのホスティングに関する問題

YUM サービスのホスティング中に次の問題が発生する可能性があります。

- ◆ ZENworks 2017 アプライアンス上で YUM サービスをホストしている場合、ZENworks 2020 に移行すると、そのサービスが使用できなくなる場合があります。既存のすべての YUM リポジトリの詳細が削除され、マイグレーション後に再作成する必要があります。
- ◆ スタンドアロンの ZENworks 2017 Linux プライマリサーバで YUM サービスをホストしている場合、直接 (ZENworks 2017.x を使用して更新せずに) ZENworks 2020 にアップグレードした後でサービスが使用できなくなる可能性があります。YUM リポジトリの詳細は削除されませんが、YUM サービスは手動で再設定する必要があります。

解決策：アップグレード後に YUM サービスが使用できなくなる場合は、サービスを正しく再設定する方法について、Micro Focus Customer Care にお問い合わせください。

## ZENworks Full Disk Encryption

- ◆ [7 ページの「Windows 7 OS 搭載の管理対象デバイスにおける PBA によるシングルサインオンの問題」](#)
- ◆ [7 ページの「追加のパーティションが仮想マシン \(VM\) で暗号化されない」](#)

### Windows 7 OS 搭載の管理対象デバイスにおける PBA によるシングルサインオンの問題

セキュリティの理由により、プリブート認証 (PBA) を使用したシングルサインオンでは、Windows 7 オペレーティングシステムを搭載している一部の管理対象デバイスで Windows ログインを認証できない場合があります。

解決策：シングルサインオンを機能させるため、PBA による認証後 1 分以内に Ctrl+Alt+Del を押す必要がある場合があります。シングルサインオンがスキップされる場合にも、ユーザは Windows 資格情報を使用して引き続きログインできます。

### 追加のパーティションが仮想マシン (VM) で暗号化されない

ディスク暗号化ポリシーは「固定ディスク」のみを暗号化するように設計されています。セキュリティ上の理由で、これらのデバイスにディスク暗号化ポリシーを割り当てるときに、「すべてのドライブを暗号化する」オプションを選択する場合に VM の追加のパーティションが「リムーバブルストレージ」ドライブと解釈される可能性があります。

解決策：[すべてのローカル固定ボリュームを暗号化する] オプションを使用せずに [特定のローカル固定ボリュームを暗号化する] オプションを使用して、ディスク暗号化ポリシー設定で複数のボリュームを持つ VM にドライブ文字を割り当てます。

## ZENworks Endpoint Security

- ◆ [7 ページの「再起動せずに ZENworks Agent を再インストールすると、zeswifi ドライバがインストールされない場合がある」](#)

### 再起動せずに ZENworks Agent を再インストールすると、zeswifi ドライバがインストールされない場合がある

管理対象デバイスで、ZENworks Agent をインストールまたはアンインストールするときには常に再起動が必要です。途中で再起動せずに再度デバイス上に ZENworks Agent をインストールする場合、zeswifi ドライバをインストールするために再インストール後に 2 回再起動する必要がある場合があります。そうしないと、Endpoint Security Wi-Fi ポリシーの適用に問題が発生する場合があります。

## Vertica

- ◆ 8 ページの「複数のノードの Vertica クラスタ環境でシステムを更新中に verticaDBMigrate 設定アクションが完了できない場合に、ダッシュレットに一貫性のないデータが表示される」

### 複数のノードの Vertica クラスタ環境でシステムを更新中に verticaDBMigrate 設定アクションが完了できない場合に、ダッシュレットに一貫性のないデータが表示される

ZENworks 2020 Update 1 リリースへのシステム更新中に、Vertica が有効なアプライアンスサーバで verticaDBmigrate 設定アクションが実行されます。このアクションは、RDBMS から最新のリリースで追加された Vertica データベースに新しいテーブルを移行するために実行されます。Vertica クラスタに複数のノードがある場合、ノードのいずれかがこの設定アクションを実行し、残りのノードと非アプライアンスサーバがシステム更新を完了します。ただし、何らかの理由で、その設定を実行しているサーバで設定アクションが完了していない場合、システム更新が正常に完了した他のサーバからダッシュレットデータにアクセスすると、ダッシュレットの新しいテーブルに一貫性のないデータが表示される場合があります。これらのテーブルは Vertica データベースではなく、RDBMS からデータを取得します。

解決策 : Vertica が有効なアプライアンスサーバのいずれかで verticaDBmigrate 設定アクションを手動で実行します。この設定アクションの詳細については、『Vertica Reference Guide』の「[Migrating Data to Vertica](#)」を参照してください。

## その他のマニュアル

この Readme は、ZENworks 2020 Update 1 リリースに固有の問題をリストしています。他のすべての ZENworks 2020 Update 1 のマニュアルについては、[ZENworks 2020 マニュアルの Web サイト](#)を参照してください。

## 保証と著作権

保証と著作権、商標、免責事項、保証、輸出およびその他の使用制限、米国政府の規制による権利、特許ポリシー、および FIPS コンプライアンスの詳細については、<https://www.novell.com/company/legal/> を参照してください。

Copyright © 2008 - 2020 Micro Focus Software Inc. All Rights Reserved.